

地域再生とまちづくり

各都市が目指すものは

<第29回>

農業中心からの転換

川北町は、加賀平野のほぼ中央部に位置し、霊峰白山を源とする手取川の右岸に沿って拓かれた町で、手取川がもたらした肥沃な土地と、豊かな水資源に恵まれていたことから県内有数の穀倉地帯として発展してきた。面積は14・76平方キロ、人口約6300人の小さな町である。

石川県川北町・企業誘致の成果で子育て環境

昭和50年代に町は将来のため、農業を中心とした

た施策から工場を誘致する施策に方針転換した。ソニー

する地理的条件を武器とした。15年の北陸新幹線金沢延伸開業に際しても、企業誘致の起爆剤にすぎたという姿勢で臨

川北町の位置図



東芝、日立の中小型液晶事業を統合した「ジャパニディスプレイ」の工場を筆頭に、これまで製造業を中心に多くの企業誘致を手がけてきた。

そうした積極的な企業誘致が成功した結果、町の財政は安定し、それを基に子育て環境の整備と負担軽減を柱とした少子化対策、福祉政策の拡充に取り組んできた。

主なものは、①出産育児一時金(00年4月から支給)、②乳幼児・児童・生徒等医療給与金支給制度(97年4月に

うえに、手取川の地下水が豊富という地質や、金沢市と空港がある小松市との間に位置

創設、順次拡充)、③保育料・公共料金(割安設定)、④チャイルドシート購入補助金、⑤高齢者への医療費助成や各種手当・サービスなどだ。

これらの各種施策が大きな呼び水となって、町の人口はもとより、子どもの数が飛躍的に増加した。県の人口は03年以降概ね減少傾向にある一

若者の進学対策必要

北町は他の自治体と比べ出生率が高いが、来たるべき超高齢社会に備えて、引き続き出生率の向上を図るため、子供を安心して産み、育てながら男女ともに社会で働ける環境づくりを目指す必要がある。

若者の進学対策必要

方で、川北町は増加傾向が継続している。直接的な理由は、民間による新興住宅地の開発などだが、町外からの転入者に聞くと「子育てや福祉が充実している」という理由が一番多いようだ。

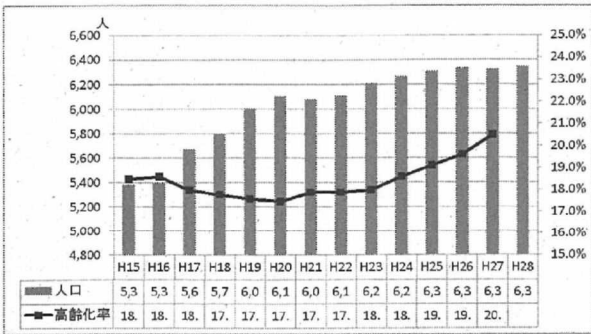
一方で65歳以上の人口比率(高齢化率)は、川北町も緩やかではあるが上昇傾向にあり、高齢化が進行しているという点では石川県と同じ問題を抱えている。川

定住促進へ各種施策

転入者で人口も増加傾向

(日本不動産研究所金沢支所、不動産鑑定士・藤井悠司)

川北町 人口と高齢化率の推移



(注) 「国勢調査に基づく推計人口」より



豊富な地下水を供給する手取川



企業誘致によって進出した工場